

大豆（害虫防除）

指針採用農薬一覧表

病害虫名 農薬名（商品名）	タネバエ	ダイズサヤタマバエ	マメシンクイガ	イシロイチモジマダラメ	カメムシ類	ハスモンヨトウ	フタスジヒメハムシ	コガネムシ類	ネキリムシ類	センチュウ類	アブラムシ類	ハダニ類	ハト
テロン										●			
D C 油剤										●			
キヒゲン	△							●					
ダイアジノン粒剤 3	●							●※					
ダイアジノン粒剤 5	●	△	△	△	△		△	●※	△				
エルサン粉剤 3 D L				●	●	●							
ダントツH粉剤 D L			△		●		△				△		
トレボン粉剤 D L 豆類（子実）登録		△	●	●	●	●	△				△		
ロムダン粉剤 D L						●							
アタブロン乳剤						●							
アディオオン乳剤			●		△		△				△		
エルサン乳剤			●	●	△	●					●		
カスケード乳剤		△	△		△	●	△					△	
スミチオン乳剤		●	●	●	△						●		
トレボン乳剤		△	●	●	△	●	△				△		
ノーモルト乳剤						●							
マッチ乳剤						●							
馬拉ソン乳剤			△					△			●	△	
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤		△			●		△						
クルーザー F S 3 0	△						●		●		△		
クルーザー M A X X	△						●		●		△		△
パーマチオン水和剤		●	●	●	●	●							
フェニックス顆粒水和剤			△			●							
フェニックスフロアブル						●			△				
キラップフロアブル					●								
ダントツフロアブル			△		●		△				△		
トルネードエース D F						●							
プレオフロアブル			△			●							
プレバソンフロアブル 5			△			●							
マトリックフロアブル						●							
ロムダンゾル						●							
グレースシア乳剤			△			●	△					△	

※：幼虫登録、△：本指針には採用していないが登録がある

大豆（害虫）

(1) タネバエ

(生態と防除のねらい)

① 未熟堆肥、鶏糞、油かすを基肥に用いると発生が多いので、これらは深く処理して覆土する。

農薬名			毒性	備考
IRAC	商品名	一般名		
① ②				
1B	ダイアジノン粒剤 3	ダイアジノン粒剤	普	土壌混和 豆類(種実)登録
1B	ダイアジノン粒剤 5	ダイアジノン粒剤	普	作付前：全面土壌混和又は作条土壌混和 生育中：作条処理して軽く覆土

(薬剤使用上の注意事項)

(2) ダイズサヤタマバエ

(生態と防除のねらい)

① 開花期から幼莢期に薬剤を散布し、産卵、食入防止に努める。

農薬名			毒性	備考
IRAC	商品名	一般名		
① ②				
1B	スミチオン乳剤	MEP乳剤	普	
3A 1B	パーマチオン水和剤	フェンバレレート・MEP水和剤	劇	蚕毒、魚毒注意

(薬剤使用上の注意事項)

(3) マメシנקイガ、シロイチモジマダラメイガ

(生態と防除のねらい)

- ① 幼虫が莢の子実を食害する。
- ② 老熟幼虫が莢から脱出し、地上に落ちて土中で繭を作って越冬する。
- ③ 年1～2回発生する。
- ④ 大豆収穫後に、越冬場所である圃場を耕耘する。
- ⑤ 発蛾最盛期～被害発生初期の8月中～下旬に1～2回散布する。
- ⑥ 連作を避け、水稻との輪作で生息密度を下げる。
- ⑦ 若莢期（9月上旬頃）に防除を行う。

農薬名			毒性	備考
IRAC	商品名	一般名		
① ②				
1B	エルサン乳剤	PAP乳剤	劇	
1B	エルサン粉剤 3DL	PAP粉剤	普	シロイチモジマダラメイガで登録
1B	スミチオン乳剤	MEP乳剤	普	
3A 1B	パーマチオン水和剤	フェンバレレート・MEP水和剤	劇	水産動植物注意※①
3A	アディオン乳剤	ペルメトリン乳剤	普	マメシנקイガで登録
3A	トレボン乳剤	エトフェンブロックス乳剤	普	水産動植物注意
3A	トレボン粉剤DL	エトフェンブロックス粉剤	普	豆類（種実）登録

(薬剤使用上の注意事項)

① フェンバレレート・MEP水和剤は蚕に対する毒性が強いため、桑園の付近では使用しない。

大豆（害虫）

(4) カメムシ類

(生態と防除のねらい)

- ① カメムシ目のカメムシで、ホソヘリカメムシ（ホソヘリカメムシ科）、アオクサカメムシ、ミナミアオカメムシ・イチモンジカメムシ（以上カメムシ科）など種類が多い。
- ② 若い莢が吸汁を受けると落莢したり、板莢となる。豆の肥大期では変形、変色し、品質低下するため若莢期～肥大期に2～3回、7～10日おきに散布する。
- ③ 大豆を団地圃場では、広域一斉防除の効果が高い。

農薬名			毒性	備考
IRAC	商品名	一般名		
① ②				
1B	エルサン粉剤3DL	PAP粉剤	普	
3A 1B	パーマチオン水和剤	フェンバレート・MEP水和剤	劇	水産動植物注意
3A	トレボン粉剤DL	エトフェンブロックス粉剤	普	水産動植物注意、豆類（種実）登録
4A	スタークル/アルパリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	普	
4A	ダントツフロアブル	クロチアニジン水和剤	普	
4A	ダントツH粉剤DL	クロチアニジン粉剤	普	
2B	キラップフロアブル	エチプロール水和剤	普	ホソヘリカメムシにはやや劣る

(5) ハスモンヨトウ

(生態と防除のねらい)

- ① 本県の沿岸など暖かい地域では越冬可能で、越冬地域から長距離飛来する。
- ② 大豆の他、多くの農作物を加害する。
- ③ 8月中旬頃から発生が多くなるので発生状況に注意し、白変葉を見かけたら、直ちに防除を行う。
- ④ 老齢幼虫は薬剤防除が困難となるので、早めの防除を行う。

農薬名			毒性	備考
IRAC	商品名	一般名		
① ②				
1B	エルサン乳剤	PAP乳剤	劇	水産動植物注意
1B	エルサン粉剤3DL	PAP粉剤	普	水産動植物注意
3A 1B	パーマチオン水和剤	フェンバレート・MEP水和剤	劇	水産動植物注意
3A	トレボン粉剤DL	エトフェンブロックス粉剤	普	水産動植物注意、豆類（種実）登録
3A	トレボン乳剤	エトフェンブロックス乳剤	普	水産動植物注意
15	アタブロン乳剤	クロルフルアズロン乳剤	普	水産動植物注意
15	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	普	水産動植物注意
15	ノーモルト乳剤	テフルベンズロン乳剤	普	水産動植物注意
15	マッチ乳剤	ルフェヌロン乳剤	普	水産動植物注意
18	マトリックフロアブル	クロマフェノジド水和剤	普	
18	ロムダン粉剤DL	テブフェノジド粉剤	普	水産動植物注意
18	ロムダンゾル	テブフェノジド水和剤	普	
28	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	普	水産動植物注意
28	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド水和剤	普	水産動植物注意
28	ブレバソソフロアブル5	クロラントラニリプロール水和剤	普	水産動植物注意
22A	トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	普	
UN	ブレオフロアブル	ピリダリル水和剤	普	水産動植物注意
30	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	普	水産動植物注意

(薬剤使用上の注意事項)

- ① メソミル剤は漂流飛散による危害を防止するため泡散布を推奨している。
- ② 地域により薬剤感受性が異なる。また、同一系統薬剤を連用すると薬剤に対する感受性が低下するので、異なる系統の薬剤を輪番使用する。

大豆（害虫）

(6) フタスジヒメハムシ

- ① 成虫が圃場や畦畔の落葉や雑草で越冬する。
- ② 成虫は、葉、莖、莢を食害し、莢が食害されると子実には黒斑粒を生じて品質低下となる。
- ③ 幼虫は、根や根粒を食害し、地上部の生育不良を発生させる。
- ④ 暖地では年２回発生する。
- ⑤ モザイク病のウイルスを媒介すると考えられる。
- ⑥ 大豆収穫後に、越冬場所である圃場の落葉を土中にすき込む。
- ⑦ 連作を避け、生息密度を下げる。
- ⑧ 農薬による種子消毒を行う。
- ⑨ 発生を認めたら、早めに防除を行う。

農薬名		毒性	備考
IRAC	商品名		
① ②			
4A	クルーザー F S 3 0	チアメトキサム水和剤	普 水産動植物注意、塗沫処理
4A 12 4	クルーザー M A X X	チアメトキサム・フルジオキソニル・メタラキシルM水和剤	普

(7) コガネムシ類

農薬名		毒性	備考
IRAC	商品名		
① ②			
1B	ダイアジノン粒剤 3	ダイアジノン粒剤	普 水産動植物注意、土壌混和 豆類（種実）登録 幼虫登録
1B	ダイアジノン粒剤 5	ダイアジノン粒剤	普 水産動植物注意 作付前：全面土壌混和又は作条土壌混和 生育中：作条処理して軽く覆土 幼虫登録

(8) ネキリムシ類

農薬名		毒性	備考
IRAC	商品名		
① ②			
4A	クルーザー F S 3 0	チアメトキサム水和剤	普 水産動植物注意、塗沫処理
4A 12 4	クルーザー M A X X	チアメトキサム・フルジオキソニル・メタラキシルM水和剤	普

(9) センチュウ類

(生態と防除のねらい)

- ① ダイズシストセンチュウ、ミナミネグサレセンチュウ、ネコブセンチュウ類が防除の対象となる。

農薬名		毒性	備考
IRAC	商品名		
① ②			
8A	テロン D C 油剤	D－D 剤（97％）	劇 水産動植物注意、土壌消毒、ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ、ダイズシストセンチュウ

大豆（害虫）

(10) アブラムシ類

(生態と防除のねらい)

- ① ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ダイズアブラムシ、マメアブラムシが主体である。
- ② 葉や茎に寄生し吸汁加害するため、葉は縮れて奇形葉となり生育は著しく阻害される。
- ③ 萎縮病、ウイルス病、モザイク病及びわい化病のウイルスを媒介する。
- ④ 発生を認めたら、早めに防除を行う。

農薬名			毒性	備考
IRAC	商品名	一般名		
① ②				
1B	エルサン乳剤	P A P 乳剤	劇	水産動植物注意
1B	スミチオン乳剤	M E P 乳剤	普	水産動植物注意
1B	マラソン乳剤	マラソン乳剤	普	水産動植物注意

(11) ハダニ類

(生態と防除のねらい)

- ① 乳剤は発生初期に散布する。
- ② 生育中～後期の寄生に注意し、薬剤が葉裏に十分かかるよう散布する。
- ③ 高温乾燥が続くと発生が増加する。

農薬名			毒性	備考
IRAC	商品名	一般名		
① ②				

※現在指針採用農薬なし。

(12) ハト

農薬名			毒性	備考
FRAC	商品名	一般名		
① ②				
M03	キヒゲン	チウラム水和剤	普	水産動植物注意

大豆（病害防除）

指針採用農薬一覧表

病害虫名 農薬名（商品名）	紫斑病	べと病	菌核病	種子消毒 （紫斑病）
アミスター２０フロアブル	●	△		
キヒゲン				●
キヒゲンＲ－２フロアブル				●
ゲッター水和剤	●			△
サンリット水和剤	●			
スミレックス水和剤			●	
Ｚボルドー	●			
トップジンＭ粉剤ＤＬ	●			
トップジンＭ水和剤	●		●	●
ファンタジスタ顆粒水和剤	●		△	
ベンレート水和剤	●		△	
ベンレートＴ水和剤２０				●
ホーマイ水和剤				●
ロブラール水和剤			●	

大豆（病害）

(1) 種子消毒（紫斑病）

（生態と防除のねらい）

- ① 紫斑病菌の一次伝染源を絶つことが、主なねらいである。

農薬名			毒性	備考
FRAC	商品名	一般名		
M03	キヒゲン	チウラム水和剤	普	ハトにも登録あり
M03	キヒゲンR-2フロアブル	チウラム水和剤	普	
1	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	普	
M03 1	ベンレートT水和剤20	チウラム・ベノミル水和剤	普	
M03 1	ホーマイ水和剤	チウラム・チオファネートメチル水和剤	普	

(2) 紫斑病 *Cercospora kikuchii*

（生態と症状）

- ① 病原菌は主として菌糸の形で種子で越冬する。病気にかかった茎葉やさやも伝染源となる。
 ② 結実期に雨が多く涼しい気候が続いた場合に多く発生する傾向がある。
 ③ 成熟期にも降雨が多いと発病が促進される。

（防除）

- ① 水かけの良い圃場を選択する。排水対策を実施する。
 ② 幼莢期から子実肥大期に2回散布する。種子伝染するので、罹病植物は集めて焼却し、播種前に罹病種子を除去する。
 ③ 罹病残渣は圃場内に残さず処分する。
 ④ 成熟後、速やかに収穫・乾燥を行い、品質・収量を低下させない。

農薬名			毒性	備考
FRAC/ IRAC	商品名	一般名		
M01	Zボルドー	銅水和剤	普	
10 1	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	普	
1	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	普	
1	トップジンM粉剤DL	チオファネートメチル粉剤	普	
1	ベンレート水和剤	ベノミル水和剤	普	
3	サンリット水和剤	シメコナゾール水和剤	普	
11	アミスター20フロアブル	アゾキシストロビン水和剤	普	
11	ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリベンカルブ水和剤	普	

大豆（病害）

(3) ベと病 *Peronospora manshurica*

(生態と防除のねらい)

- ① 病原菌は種子または罹病植物上で卵胞子で越冬し、翌年の第一次伝染源となる。このため、罹病植物を除去するとともに、同一圃場での連作を避ける。
- ② 降雨後に発生が多いので、特に6月以降の梅雨期には注意し、発病初期に防除する。
- ③ 密植多肥を避け、過繁茂を抑えて通風を良くする。

(4) 菌核病

(生態と防除のねらい)

- ① 病原菌は菌核の形で越冬し、翌年子のう盤上に形成された子のう胞子によって空気伝染する。
- ② 播種前に比重1.13の塩水選で混在する菌核を除去し、圃場に持ち込まない。また、発生初期の防除を徹底する。
- ③ 発生地は3年以上イネ科作物を栽培する。罹病植物は集めて焼却する。

農薬名			毒性	備考
FRAC	商品名	一般名		
1	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	普	
2	スミレックス水和剤	プロシミドン水和剤	普	
2	ロブラール水和剤	イプロジオン水和剤	普	

大豆
ドローンに適した農薬一覧

IRAC/FRAC	用途	商品名	一般名	毒性	適用病虫害雑草名	使用方法
F:11	殺菌剤	アミスター20フロアブル	アゾキシストロビン水和剤	普	紫斑病	無人航空機による散布
I:1B	殺虫剤	スミチオン乳剤	MEP乳剤	普	カメムシ類 シロイチモジマダラメイガ マメシクイガ ダイズサヤタマバエ	無人航空機による散布
I:15	殺虫剤	アタブロン乳剤	クロルフルアズロン乳剤	普	ハスモンヨトウ	無人航空機による散布
I:15	殺虫剤	ノーモルト乳剤	テフルベンズロン乳剤	普	ハスモンヨトウ	無人航空機による散布
I:15	殺虫剤	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	普	カメムシ類 ハダニ類 フタスジヒメハムシ マメシクイガ ハスモンヨトウ ダイズサヤタマバエ	無人航空機による散布
I:18	殺虫剤	ロムダンエアー	テブフェノジド水和剤	普	ハスモンヨトウ	無人ヘリコプターによる散布
I:18	殺虫剤	マトリックフロアブル	クロマフェノジド水和剤	普	ハスモンヨトウ	無人航空機による散布
I:4A	殺虫剤	ダントツフロアブル	クロチアニジン水和剤	普	アブラムシ類 カメムシ類	無人航空機による散布
I:UN	殺虫剤	プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	普	ハスモンヨトウ	無人航空機による散布
I:2B	殺虫剤	キラップフロアブル	エチプロール水和剤	普	カメムシ類	無人ヘリコプターによる散布
I:3A	殺虫剤	アディオオン乳剤	ペルメトリン乳剤	普	アブラムシ類 カメムシ類 マメシクイガ	無人航空機による散布
I:22	殺虫剤	トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	普	ハスモンヨトウ	無人航空機による散布
I:28	殺虫剤	プレバソンフロアブル5	クロラントラニリプロール水和剤	普	オオタバコガ マメシクイガ ハスモンヨトウ	無人航空機による散布
I:28	殺虫剤	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド水和剤	普	オオタバコガ ネキリムシ類 ハスモンヨトウ	無人航空機による散布

I: IRAC

F: FRAC

※最新情報については、農林水産省ホームページを参照： <https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/nouyaku.html>